

むかしMattoの町があった

C'era una volta la città dei matti...

イタリアは精神病院をなくす法律を作ったって知ってますか？

「むかしMattoの町があった」とは—

Mattoはイタリア語で「狂気を持つ人」という意味です。「むかしMattoの町があった」…、「Mattoの町」? Mattoが沢山集まって住んでいるところ?—そうです。「Mattoの町」とは精神病院のことで、では何故「むかし」で「あった」なのか?それは現在、イタリアではマニコモミオ、つまり精神病院を廃止する為の法律が施行されているからです。そのイタリア精神保健改革の礎をつくった立役者がこの映画の主人公の一人である精神科医フランコ・バザーリア。この映画は彼を中心とするイタリア精神保健改革の最初の20年を描いたイタリア映画なのです。この映画はイタリア国営放送RAIと映画会社Ciao Ragazzi!によって制作されました。三時間に及ぶこの大作は元々2010年2月7日(日)8日(月)の夜9時10分から1時間半ずつ二夜連続でテレビ放映されたもので、その時のイタリア国内での視聴率はなんと21%を上回ったそうです。そして現在、ヨーロッパ各地で、南米のブラジルやアルゼンチンで、トルコで、イランで、世界中の精神保健医療の在り方に関心を持つ人達の間でこの映画の自主上映運動が展開されています。この度、広島でも私達「一般社団法人FlaT」と「バザーリア映画を自主上映する180人のMattoの会」がこの映画の自主上映会を行うことになりました。



○ 参加申込方法、お問合わせ先

一般社団法人 FlaT 担当: 湯原

E-mail アドレス: matto-h@hotmail.co.jp
FAX 番号 : 082-205-0926

席数に限りがございますので、メール又はFAXにて事前申込みをお願いいたします。
以下ご記入の上、お申込み下さい。

- ① お名前(複数名でお申込みの場合は代表者名)
- ② 参加人数
- ③ 所属、職業など(書かなくても可)
 - 参加費 1000円
(当日持参、参加者には映画のパンフレットを贈呈致します。)
 - 参加者多数の場合は、申込みの先着順となります。
(第1回は先着100名、第2回は先着300名)



「狂気は一つの人間的条件だ」

一奪われた尊厳を取り戻す為の解答のない闘いの物語

この映画には3人の主人公がいます。イタリア精神保健改革の父、フランコ・バザーリア。アメリカ進駐軍に凌辱された女性から生まれたマルゲリータ。旧ユーゴでファシストとナチスに蹂躪された家も肉親も失ったボリス。

1961年、ゴリツィア県立精神病院長に赴任したバザーリアは、小さな檻に閉じ込められていたマルゲリータに顔を近づけたとたん、唾を吐きかけられます。独房のベッドに15年も縛り付けられていたボリスを回診すると、屈強な看護師たちに取り押さえられた立ち姿のボリスの汚れた股間、ホースの水が無遠慮に掛けられています。「ここは監獄だ」と気づいたバザーリアは苦悶した末、その場所に「正統な人間らしさ」を取り戻そうと奮闘を始め、やがてその情熱が職員やマルゲリータ達の間にも少しずつ浸透し、「精神病」を取り巻く環境を変え始めることになってくるのですがその改革は一筋縄ではいかない困難の連続でもあり—。

この映画は精神保健医療の在り方に正解を与えてくれるような映画ではありません。問題の解決はないし、だからといって諦めも達観もない。この映画で描かれているのはただ傷つき、苦悩し、願って、それでもより良い世界として納得のいく自分の在り方を模索して生きていく多様な人間達の姿です。とてもエネルギッシュな作品です。是非観て様々なことを感じて下さい。

きっと世界は変わる！
この映画の最初の方にバザーリアが「僕も含めて、誰も精神病について何もわかってないんだよ」と言うシーンがあります。

人間は狂気とどう向き合っていくべきか？

どうすれば不可解な苦悩を乗り越えて進んでいけるのか？

—この問いに正解はありません。けれどもその問題を簡単に処理してしまうことなしに一生懸命に向き合い、取り組み合いを続けることがきつと人間の在り方を輝かせる筈です。

この映画で描かれている苦悩と亀裂を抱えながらもがいている登場人物達は共感も反感も踏まえたとてきつとあなたの心に何かしらの爪痕をのこしてくれてしょう。

この映画を観て、彼らに負けないように「狂気」というあまりにクネクネな人間の発露を内包する私達の社会の在り方を一緒に少しだけでも「オモシロく」していきましよう！

文責: 岡本卓也

RAIフィクション・Ciao Ragazzi共同制作作品

監督: マルコ・トウルコ
制作: クラウディア・モーリ
出演: フアブリツィオ・ジフーニ
フランコ・ジュリック
ミケラ・チエスコ
サンドラ・トットフォラッティ
ヴァレリア・サベル
フェイス・アーバー・バガツラ
2010年/イタリア/カラー/198分
字幕: 大阪ドーナツクラブ
原題: C'era una volta la città dei matti...

上映時間 3時間18分

この映画は二部構成となっています。前半と後半の間に30分間休憩をはさみます。2日目(3/3)は、開演前と休憩時間に作業所製品の展示・販売もごさいます。

会場へのアクセス ※公共交通機関でお越しください

JR広島駅南口より約15分

広電バス5号線 大学病院行 または 広島バス26-1号(旧町)線

マップ、アクセス方法は www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/ をご覧下さい。

主催: 一般社団法人FlaT、バザーリア映画を自主上映する180人のMattoの会

後援: イタリア大使館、さくら会(甘日市市精神障がい者家族会)、坂井印刷、

POTA(旧精神科作業療法協会)、広島県精神保健福祉士協会、

広島県精神保健福祉家族会連合会、ひろしまアルコール関連問題ネットワーク、

広島市就労支援センター、広島県就労振興センター、広島産業保健推進センター、

広島県作業療法士会(予定)